

筑波大学に山岳科学センターが設立されました

筑波大学山岳科学センター演習林

筑波大学はこの4月に、これまでの筑波大学菅平高原実験センターと農林技術センター演習林部門を統合・拡充し、新しいセンターとして「山岳科学センター」を設置しました。これに伴い、菅平高原実験センターは「山岳科学センター菅平高原実験所」に、農林技術センター演習林部門は「山岳科学センター演習林」に、それぞれ改称されました。

菅平高原実験所（図1）は、長野県上田市の菅平高原（標高約1,300 m）に位置し、35 haの敷地に草原から落葉広葉樹林までの遷移段階の異なる実験フィールドと樹木園を有しています。主に生物科学分野、地球科学分野、農学分野のフィールド研究、教育に幅広く利用されています。また、透過型電子顕微鏡や次世代シーケンサー等の先端機器も整備され、オープンファシリティとして学外にも公開しています。演習林は、八ヶ岳演習林、井川演習林、筑波実験林の3箇所があります（図1）。八ヶ岳演習林はアクセスのよい野辺山高原と隣接する山地に位置しており、人工林、天然林の森林管理の他に野生動物、森林植物の生態などの教育研究を主に行っています。井川演習林は南アルプスの脆弱地盤・急峻地形を活かした治山や砂防の教育研究および近年に問題となっている動物の林業被害についての教育研究を主に行っています（写真1）。筑波実験林（5.6 ha、標高23 - 27 m）には苗畑や里山の雑木林、植物見本園などがあり、特色あるフィールドとして研究と教育に利用されています。



図1：山岳科学センターの4つのフィールドの位置



写真1：井川演習林における大規模崩壊地。拡大が進む崩壊地（左）と拡大が見られない崩壊地（右）
（撮影者）今泉文寿（2007年）

山岳科学センターでは、山と森林の自然環境と人間の営みとの関係を地球圏、生物圏、人間圏の観点から総合的に探求する学問分野「山岳科学」を確立し、日本と世界の山岳科学研究を先導するとともに、産官学連携により、山岳・山間地域の環境保全、防減災そして経済活性化を実現し、安心安全で元気な地域社会創生に貢献することを目指しています。現在、生物科学分野、地球科学分野、農学分野、環境科学分野等をカバーする40名を超える教員が所属し、基礎から実用まで、分野融合的なものも含む様々な山岳科学研究に取り組んでいます。複数の国内機関とも連

携協定を結び、産官学連携の共同研究も実施しています。11月には、スイスや台湾などからの招待講演者を迎え、第1回山岳科学センター国際シンポジウムを開催しました（写真2）。また、国際山岳研究イニシアティブ（Mountain Research Initiative: MRI）にアジアの代表機関の一つとして名乗りを上げ、国際的な展開も開始しています。



写真2：第1回山岳科学センター国際シンポジウム

教育面では、教育関係共同利用拠点に認定され、演習林協議会の公開実習も含めて全国から多くの大学生、大学院生を公開実習に受け入れてきました。平成30年度からは、8つの学部生対象、11の大学院生対象の公開実習をそれぞれ提供する予定です。また、所属教員のほとんどが修士課程の「山岳科学学位プログラム」の教育を担当しており、森林の保全・管理・利用等も含め森と山で活躍できる人材育成に力を入れています。

新しいセンターのもと、山岳科学センター演習林は引き続き全国大学演習林協議会の一員として活動して行きますので、今後ともよろしく願いいたします。

山岳科学センターHP：<http://www.msc.tsukuba.ac.jp>

教育関係共同利用拠点 HP：<http://www.sugadaira.tsukuba.ac.jp/kyoiku/>

山岳科学学位プログラム HP：<http://www.life.tsukuba.ac.jp/~sangaku/>